

# 漏れの無い権利を取得するテクニック

～権利の空白エリアの可視化・権利化と、生成AIによる進歩性ストーリー作成～

**通常では進歩性がないと出願を諦めていた発明を出願及び権利化に導く！  
進歩性ストーリーの作成をClaudeで実践した内容も紹介いたします！**

## ■開催日時

2026年 11月4 日[水]

◆時間14:00～16:30(途中休憩有り)

※申し込んでいただいた皆様には、セミナー終了後にセミナーを録画した動画（2週間閲覧可能）の閲覧用URLをお送りいたしますので、セミナー当日に都合がつかない方も受講可能です。

1件の特許出願で製品をカバーすることは難しいです。その一方で、思いついた発明をやみくもに出願しても、権利の穴が発生し、製品を十分にカバーできない可能性が有ります。

本セミナーでは、発明者が持ってきたアイデアから、漏れの無い権利網を作ることができるテクニックについてご説明します。

第1部では、権利の空白エリアを可視化することについてお話しします。具体的には、仮想例である「燃料電池バス」について、「燃料電池バス」の周囲にどんな権利の空白エリアがあるのかを確認する方法についてお話しします。そこで、「燃料電池バス」と仮想のサーチ結果との比較手法、その比較に基づく権利の空白エリアの見つけ

方について解説を行います。なお、本セミナーは調査のセミナーではありませんので、調査方法の詳細についてはお話ししません。

第2部では、第1部で可視化した空白エリアを権利化する手法についてお話しします。第1部で可視化した空白エリアは、仮想のサーチ結果に対してぎりぎりを攻めたものです。そのため、空白エリアの権利化が容易ではなく、引例1＋引例2で進歩性が否定されそうな発明になりがちです。そこで、第2部では、「課題」「阻害要因」「有利な効果」をキーワードとして、出願時に進歩性を作りこむテクニックをお話しします。引例に記載されていない課題の設定、引例同士の組み合わせに対する阻害要因、阻害要因を上回る有利な効果、という進歩性ストーリーを出願前に検討し、明細書に盛り込むことにより、通常では進歩性がないと出願を諦めていた発明を出願及び権利化に導きます。

第3部では、第2部の進歩性ストーリーの作成を生成AIで実践した内容についてお話しします。講師が実際に阻害要因ストーリーを盛り込んで出願した明細書をClaudeに分析させ、ストーリーの作り方をSkillとしてパターン化した事例をご紹介します。

●講 師： プロフィック特許事務所 弁理士（特定侵害訴訟代理付記） 谷 和紘 氏

●会 場： Zoomを使ったオンラインセミナー